

1. 授業の概要(ねらい)

現在、日本のスポーツビジネスは大きな転換点に差し掛かっています。2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催決定を契機に、「体育」と称される従来型のスポーツ振興から、成長産業としての「スポーツ」の振興のモードに切り替わります。

日本のスポーツ産業の市場規模は現在5.5兆円と言われていますが、スポーツ先進国のアメリカは50兆円以上の市場を持っています。2016年に閣議決定された日本再興戦略2016では、スポーツ市場を2025年に15兆円、スポーツ実施率(成人が週1回以上)を2015年の40.4%から2025年は65%という数値目標を掲げています。2019年のラグビーW杯、2020年の東京オリンピック・パラリンピック、2021年のワールドマスターズゲームズという世界的なスポーツイベントの連続開催を控える今こそ、日本のスポーツビジネスを大きく成長させるチャンスといえます。

本講義では日本のスポーツビジネスを項目ごとに分解し、それぞれの現状や課題を明らかにするとともに、今後に向けての展望について解説し、学生のみなさんとともにあるべき将来像について考えていきます。

2. 授業の到達目標

- ・我が国のスポーツビジネスにおける市場規模やその実情を把握し、社会的な価値や課題を説明できる。
- ・日本のスポーツを深く知ることで、学生自らが今後、スポーツビジネスとどう関わっていくのか方向性を定めることができる。

3. 成績評価の方法および基準

中間テスト	50点
期末テスト	50点
合計	100点

4. 教科書・参考文献

教科書

原田宗彦(編) 『スポーツ産業論第6版』(2015) 杏林書院:東京

5. 準備学修の内容

- ・日頃からスポーツのニュースや話題に敏感になっておくこと。
- ・授業で取り上げた内容やキーワードを復習すること。

6. その他履修上の注意事項

- ※「スポーツビジネス概論 I」を履修した学生に限る

7. 授業内容

【第1回】	ガイダンス及びスポーツビジネス概説
【第2回】	プロ野球のビジネス
【第3回】	Jリーグのビジネス
【第4回】	Bリーグのビジネス
【第5回】	大相撲のビジネス
【第6回】	ラグビーのビジネス
【第7回】	外部講師:選手マネジメント
【第8回】	中間テスト
【第9回】	ゴルフのビジネス
【第10回】	格闘技のビジネス
【第11回】	公営競技のビジネス
【第12回】	eスポーツ
【第13回】	オリンピック・パラリンピック 2020東京大会の展望
【第14回】	外部講師:オリンピック関係者
【第15回】	まとめとテスト対策